

寺報

龍正寺

日なた 109号

不染
世間法

如蓮華

在水

妙法蓮華經從地涌出品第十五

日
延書寫

<平成29年 6月>

宝龍会
護持会

子供祈禱会



平がなのお経本を読みました



龍正寺には鯉のぼりがいっぱい



檀信徒による手作り兜デス



何が出るかな？ドキドキ！！



ママと一緒に太鼓をたたいたヨ

みんなでパーティー。
楽しかったよ。



紙芝居にみんな夢中…



参加者一同記念撮影



— 往 職 一 言 —

6月を迎えました。

お経(法華経)の中ノ節です。

不^ふ染^{せん}世^せ間^{かん}法^{ぽう}

如^{にょ}蓮^{れん}華^が在^{ざい}水^{すい}

世間の法に染まざること、蓮華の水に在るが如し。

教えの中で私たちが、この世において惑わされず、美しく清らかに生活する、水が汚なからうが、濁っていようが染まる事なく、美しい花を咲かせる蓮華、とお釈迦様が説かれています。

説かれている所は、「妙法蓮華経 從地涌出品 第十五」です。

從地涌出とは、地下より湧き上ったとという意味です。この娑婆世界に縁の深い者、また娑婆世界で苦勞をした者こそ、この世中を淨き地とする者であるという事を説かれている

のであります。

自分の心の中に貪り、怒り、愚痴と迷いがある
は、たとえ極楽浄土に行っても不満を生じ
穢土になってしまいます。

浄土を求めるときは、心を浄くすれば自
分の身も住うところも浄くなり、その心を浄く
するには仏様の教えが必要であります。
仏様の教えは慈悲、至誠、堪忍の力をもつ
て周囲の人々の楽しみを与える、その責任は
誰にあるか「大地より湧出した菩薩」この
世の中に生れた我々であり、我々自身の努力
によって、我々自身の手で幸福な生活をきずき
あげなければならぬ教えであります。

日々、仏様の教訓に基づいて、生活する事が出来
れば心清らかに輝きのある人生になると思いま
す、どの様な時でも土泥に咲く白い蓮華のよう
に美しい人生の花を咲かせましょう。

合掌

七面山へ参拝

5月25日、26日 七面山に参拝の為登りました。
行き(登り)は、体が重く最後まで行けるかと思っ
ていました。 過去世因縁、罪障消滅を願
い登っていました。 過去2回、七面山に参拝し
ましたが、2回とも雨、今回も晴れてほしいと
思うも、この思いは届かず雨でした。

「今までの事を洗い流し、新たに生まれ変
わるという事だよ」という話をしながらの行き
でした。

いつにたまたま着くのだろうと思いつながら、
人生と同じでたまという思いが 出たり、今回は、
自然を感じながらの不思議な感覚を受
けていたような登りでした。

今回は、初めて 二の池、奥の院まで行く事が
できて参拝する事が出来ました。

下山の時 33丁目の周りで、いろいろ考え事を
しながら降りていたから「折り合いをつける」

『自然との齟齬』という言葉が頭の中を巡るの
でした。

折り合いをつけるという言葉が何処浮かんだ
のだろうかと考えていたら、ふっと... 私は別れた
夫に対して折り合いをつけることもせず、相手を
責め、傷つけていたという事に気がきました。

今まで相手にしてきた事が結果として表われ、
自分で罪を消して行く作業をしていかなくては、
いけないからのだとさりました。

ある方より「自分がしてきた事で相手を傷つけ
ていた事を理解していかなくてはいけないよ」と言わ
れ、頭で理解していたかと思っていましたが、理解
したつもりでいたため、理解していなかった事に
気がきました。

芯に相手に対してすまなかったかと思う気持ちが出
てきて涙しながらの下山でした。

下山した頃には今までになくバがすっきり
したように思いました。

今回の参拝は、本当の意味で自分自身が生まれ変わ、たに様になりました。

七面山の参道は、女性の産道にたとえられます。下山する時には産道を通して生まれる。

生まれ変わ、ていくということのたとえになるのですが、自分が体感して、その通りたに様と感じた参拝でした。

その数日には、昔の友達と会う事ができ、新たな出発にエッセンスを加えてもらえました。

心に法華経を信じる事での御加護を、体感させていたたき 感謝です。

今後とも、日々、精進...

南無妙法蓮華経

～ 報恩謝徳の喜び ～

今年も雨の降るなか七面山参拝をさせて頂きました。

日々の報恩感謝と我が子の因縁罪障消滅の為、子供達の着衣を背負って参拝しました。

昨年とは3回も転んでしまいました。今年はずりめ太鼓を叩きながら登れるかとても不安でした。

雨で滑りやすくなっている。大丈夫かな?と思うなかでふっと七面山の山門が頭に浮びました。

"この身は七面大明神様に委ねましよう。そして精一杯の思いを込めて、"うちめ太鼓の音と共に御題目を奉納させて頂こう"と思いました。

すると、23丁目まではびっくりするほど身も心も軽く、楽しくて笑みがこぼれました。

しかし、七面山までの道のりは修行です。

今回で10回目になりますが毎回違います。

初めの頃は登るも降りるも苦行でした。参拝後は必ず予期しない出来事が起こり、何故参拝後にこうなるの?と苦しみました。

今回はゆくり七面山の自然に戯れ、雨の音、木の根、こ形状、鳥のさえずり、虫の動き、頬に当たる風のこころ良さ、全てが新鮮であり、このように感じられる事に感謝でした。それは今まで経験した事のない至福の時間でした。

山門を通り抜けると、「報恩謝徳」の奉納旗が雨の中でゆらゆら揺れていました。それは私にはキラキラと輝いているように見えました。

是非、この感謝の思いを奉納旗に込めて奉納させて頂きたいと思いました。

御開帳の折、七面山は因縁罪障消滅のお山です。七面山の産道(参道)に入り、七面大明神様の右手の鍵で心の扉を開き、左手の宝珠で光を照して頂き、事で新たに生れ変わり産道(参道)を出る。"七面山は登って降りるのではなく、降りて登る。"と言われました。

因縁を消滅させて新たな生命を頂きました。

再び、雨の中、うちわ太鼓を叩き御題目を唱えて降りて行くと、出会う方々に声をかけられました。

"すごいですね～、雨の降る中で、太鼓の音に元気をもらいました。"

”
疲れた体に御題目と太鼓かしみめたり勇気を頂きました。ありがとう、などなど。

今回は今までになく多くの方々と一期一会が出来ました。
それは全て七面大明神様のおかげです。

多くの方々から大きな勇気と元気を頂きました。私の新たな生命は多くの方々との報恩感謝謝徳となりました。
この思いで次回参拝できる様に精進したいと思います。

☺ 親子 ☺

先日、テレビで特別養子縁組についての報道が流れていました。子どもを授かったけれど自分達で育てていくことができない夫婦が一定の条件を満たす新しい育ての親へ子どもをお預りする制度です。

今までは子どもに生みの親を知らせ合わせることは少なからずそうですが、生みの親、育ての親の両方が希望する場合に限り定期的に会える場を提供する動きが増えてきたとのことでした。そこには私の想像を超える人数の親子が写っていました。みんなとても幸せそうな笑顔で感動しました。また「0才児の赤ちゃんにもちゃんと「産んでくれてお母さんにはー。ありがとう言わなきゃね」と話す育ての親。子どもを産んでも殺してしまったり、ネグレクト（育児放棄）する別の親の姿を見て、自分もそうなりかねないからではないか… 縁組したことを良かったのかまだ不安だ、けれど、子どもの顔が見れて、良かったとばかり思えたと話していた産みの親。どちらも子どもに深い愛情があるからこそなんだろうと心が熱くなりました。

こうして、自分の産んだ我が子を、自分の手で育て

させて頂けることは当たり前ではないことを実感した瞬間でした。

私の経歴上、まず、子どもを授かることが難しく、そして、授かった命を無事に産んであげることができず、何度も涙しました。命の尊さ、おなかにいる時から、子ども第一の生活をし、出来ることは何でもさせて頂きました。勿論 仏様の力をお借りし、その日一日の無事を感謝し、手を合わせました。私にとって、子どもを授かり、産み育てることは当たり前、普通のことではありません。苦しく辛い思いもたくさんしましたが、この経歴がなければ、このような思いを知らなかった。その分、同じ思いをしている人に、人一倍、やさしくなれる気がします。

5月末、私の母の誕生日でした。今まで、お互い忙しいという理由もあり、ケーキを届けてお祝いするのが定番となっていました。今年はいんちに行けることになりました。私を産み育ててくれた母親に、こうして少しずつ思返ししていかなくてはいいけませんね(笑) たくさんのおりがとうを伝えたいです😊

< 6月行事予定 >

6月13日(火) 10:00~ 宗祖日蓮大聖人報恩会
大古久尊天祈願会

18日(日) 10:00~ 鬼子母尊神 祈禱会
七面大明神
終了後 役員会

< 6月住職の予定 >

< 6月の予定 >

6月6日(火)	各々の時間で	清掃. 準備
↓	↓	↓
12日(月)		
13日(火)	法要後	片付け. 準備
14日(水)	各々の時間で	清掃. 準備
↓	↓	↓
17日(土)		